

平成 29 年度 事業報告

警 岡山理科大学附属高等学校

教育の質的改善に取り組むことによって、地域社会から一層信頼される高等学校づくりを推進しました。



急激に変化してきている現代において、グローバル化に対応することは、最重要課題であると考えます。学園

の建学の理念や高校のビジョンを遵守し確実な実行力により、学校改革に取り組みながら、以下の項目に重点を置き学校改革を進めました。

○人材育成と教育力の向上

グローバル社会に対応できる人材の育成のために、これまでの教育内容や教育手法に変化をもたせ、自ら考え自ら行動できる教育手法を取り入れながら、探究心を向上させる教育へ転換しました。また、これからの教員は教育力の資質が重要であるため、教師力の向上に継続的に取り組みました。

○国際協力と社会貢献

学園が協定を締結している交流協定校との交流を強化することで、英語教育を含めグローバル社会で「生き抜く強い力」を養わせ、また、学校としての使命でもある地域社会との協働において、地域の情報の拠点として、一体感がある地域社会の発展に寄与しました。

○高大連携と社会連携の強化

岡山理科大学を始め関連大学並びに企業体、研究施設などと連携して、キャリア形成ができるようにしました。また、専門的知識や専門的手法を身に付けさせ、グローバルな視野を併せ持つ人材の養成を行い、資質の向上を図りました。

○組織力の強化

組織の見直しを行うとともに、情報共有の強化や教科会議等を密に実施することで、情報が活かされ、学校組織の向上に繋がることから、教職員の意識改革を行い、組織力の一層の強化に取り組みました。今後、更に附属高校の全教職員の意思疎通に向けた組織作りを行います。

○経営基盤の安定

生徒の確保に向けて、広報活動の強化に学校組織が共同して取り組む必要があります。また、社会的に説明責任がある高校として、生徒及び保護者が満足できる学校、地域から認められる学校として発展するように、教職員が一丸となって経営基盤の安定に更に努めていきます。

岡山理科大学附属高等学校
校長 洲脇 史朗

教育の充実

■サイエンスおよびグローバル教育の推進

これまで実施しているSSH事業の経験を生かしながらサイエンス教育を推進するとともに、これからの人材育成を目指し、グローバル教育を充実させる取り組みをしました。また、グローバルとサイエンスを軸に学校改革を推進中であり、これからの人材に必要な論理的思考力を身に付けさせる教育の変換をするため取組中です。【1-1】

■アクティブ・ラーニングの取り組み

生徒が主体的・協働的に授業に取り組み、深い理解や、問題発見・解決の能力を身に付けることができるよう、これまでの授業形態に変化を持たせ、アクティブ・ラーニングを用いた授業展開を研究し、一部の授業で実施しました。【1-2】

■ICT活用教育の推進

情報活用能力の育成のため、ICTを活用した新たな学びを実現するための教育方法を検討し、情報機器の増強およびネットワーク環境の拡充を行うべく、一部のネットワークの構築を実施しました。さらに、一部のコースでは「Classi」（ベネッセ）を取り入れた学習にも取り組みました。

次年度においてもネットワークの環境整備を実施します。【1-3】

■国際バカロレア（IB）教育プログラムの導入

学校教育法第一条校で岡山県初の国際バカロレア認定校を目指します。認定要件を満たすために下記の項目に留意しながら、必要な準備を進めており、9月1日に正式に候補校として認定され、今後は、認定校となるべく、申請を進めていきます。

- ・学習指導要領とIBの対応を整理し、適切な運用・評価などを考慮したカリキュラムの作成。
- ・教員の養成・確保。（IBスタッフ全員のワークショップ受講の早期実施）
- ・IBに関する広報・理解の増進。

認定に向けた準備が整った段階で、Application for authorization を国際バカロレア機構に提出し、IBDPの認定を目指します。【1-4】

■関連校との高大連携による質の高い教育の提供

岡山理科大学をはじめとした、関連大学との高大連携教育を継続して取り組みました。更に、連携において、聴講、実習や研究を体験することで、多面的でより高度な理解を深めさせるよう努めました。【2-1】

■提携企業等と連携した教育の提供

体験的な教育として、学園の提携する施設等（池田動物園・岡山乗馬倶楽部他）での実習により、興味・関心を深めました。【2-2】

■基礎学力向上への取り組み

学校行事を精選し、より多くの授業時間を確保します。また、補習や諸検定試験、模試等を有効に活用し基礎学力の向上に取り組みました。【3-1】

■シラバスの作成

生徒や保護者に授業の進め方や目的また評価内容を明確にするためのシラバスを作成し、年間計画、ポイントを体系的に示し、生徒の学習計画や、学習意欲の向上に結びました。【3-2】

■英語教育の強化

英語学習の成果を客観的な指標で確認することで、生徒の英語学習へのモチベーション向上を図るために、生徒のTOEFL、TOEICの受検に向け、取り組みを強化しました。また、ケンブリッジ英検の受検に挑戦できるよう、準備を進めています。さらに、教員の授業力の強化に向け、ケンブリッジ大学英語検定機構認定西日本試験センターJP176と連携の強化を図り、教員が英語教授知識認定テスト（TKT）の試験を受験するなどの取り組みを行いました。【4-1】

■教育相談体制の充実

教育相談室に専門職員を配置し、保健室・担任・生徒指導課・管理職との連携を強化し、生徒の学校生活を支援しました。引き続き、相談体制の強化に努めます。【5-1】

生徒指導

■あいさつ・マナー教育

あいさつ運動を実施し、あいさつ・マナーの向上を目指すとともに、生徒の服装、頭髪の乱れなどへの声かけ・指導、並びに交通マナーの徹底に努め、近隣の通学路に人員を配置し、監視指導の強化を行いました。また、PTAと協力して保導活動（市内保導・列車保導）を実施しました。【1-1】

■情報モラル指導

情報化社会におけるソーシャルメディアの正しい活用法や、リスクについて外部の専門講師を招いての講義も取り入れ指導を行いました。【1-2】

進学・就職指導

■進学指導プログラムの充実

希望する大学への合格が叶うよう、学力向上を目指した各種のプログラム（夏期特別講座（12日）、冬期特別講座（7日）、センター試験対策講座（16時間）、国公立対策特別教室（104時間）等）を計画・実施しました。【1-1】

■関連校への進学支援

関連大学を紹介する機会を増やし、関連大学への進学意欲を更に向上させました。また、関連大学で新設される学部学科の紹介を職員会議で大学教員に直接説明してもらい、生徒指導に役立てる取組をしました。【1-2】

■進学先の開拓

関東・関西の大学訪問を行い、本校の教育内容を周知するとともに、指定校推薦枠の獲得に努めました。【1-3】

■就職試験対策の充実

生徒に合わせた就職指導を行い、就職筆記試験や面接等の対策指導を行いました。【2-1】

■就職先の開拓

企業訪問を行い、これまでの求人企業からの求人獲得に加え、新たな企業への求人獲得に努めました。【2-2】

■資格取得のための支援充実

就職時に強みとなる資格取得に向けて、試験対策の補習等の支援の充実を図りました。【2-3】

国際交流

■交流協定校との交流

修学旅行等で海外の交流協定校への訪問や、本校への訪問受入れを行うことで、異なる国の人々と交流する機会を積極的に設けました。

また、今後は海外の高校等との交流を積極的に進めます。【1-1】

生徒募集

■オープンスクール・入試セミナーの充実

オープンスクール（3回実施）では、本校の概要・設備を中学生・保護者に説明すると共に、各科・コースの特色を紹介し、授業や実習を体験することで、本校への理解を深めました。また、部活動（1回実施）を体験することで本校への関心を高めました。

さらに、新規開催した学校見学会（1回実施）では、通常授業の見学や授業体験をとおして、本校へ

の興味を深めました。

入試セミナー（2回実施）では、本校の入試制度や出題傾向を重点的に解説し、本校受験への意欲向上を目指しました。【1-1】

■ホームページの積極活用

ホームページを活用し、学校の特色をアピールすると共に、積極的に更新することで、タイムリーな情報、学校の状況、教育活動や部活動の状況を発信しました。【1-2】

■中学校訪問・中学校対象説明会

県内および近県の中学校の進路担当者に対し、本校の概要・入試制度を紹介し、生徒への周知を依頼しました。また、中学校教員対象説明会（5回）も実施しました。【1-3】

■塾訪問・塾対象説明会

塾教員対象説明会（3回）を実施し、本校の現状を報告し、本校への理解を深めてもらい、生徒への紹介を促しました。【1-4】

■地区別入試説明会

県内、各地区に教員が出向き、生徒・保護者に対し、地区別に入試説明会を実施しました。直接アピールし、より身近に本校を感じてもらい、理解・関心を深める事を目的とし、岡山市内各地域、倉敷市、総社市、瀬戸内市など17会場で実施しました。

次年度は、実施会場の見直しを行い、効果的な実施を目指します。【1-5】

■入試制度の検討と見直し

既存の入試制度の検討および見直しを行い、より魅力のある入試制度の策定に取り組みましたが、結果的には受験生に解りにくく、入り口が狭くなりました。

次年度は入試制度を再度見直し、受験しやすい制度に変更します。【2-1】

内部質保証

■教職員の資質向上への取り組み

- ・教職員として、基本的なマナー、服装等を徹底し自覚を促しました。
- ・先進的な教育や取り組みをしている学校等を視察・体験し、本校への導入を検討することで、新たな教育の展開に努めました。
- ・外部講師を招き、7月11日に資質向上のために「教育・入試改革に向けたこれからの学校教育」についての講演会、1月20日にIB教育にかかわる研修会、さらに、3月20日にSTEM教育にかかわる研修会を実施しました。
- ・年1回の授業評価目標・実務評価を取り入れ教育の質の向上を図りました。【1-1】

■公開授業の実施と検証

学内・学外の教職員および教育関係者等に授業を公開し、指導助言を受けながら、検証を進め授業内容の改善に取り組みました。【1-2】

■生徒等への授業アンケートの実施

生徒、保護者に授業アンケート等を実施しました。結果を今後の学校運営や授業へ反映することでより良い教育の提供に努めました。【1-3】

組織力の強化

■学校運営会議の強化

校長、副校長、教頭、各部署の課長で構成する組織で、学校全体の運営方針並びに、学校が円滑にかつ革新的に運営できるよう、学校全体の業務の企画立案および連絡調整を一元化し、統一を図りました。

【1-1】

■教科会議の強化・連携

各教科において、教科長を中心とした教科会議を開催し、授業改善等の取組みを推進しました。また、各科が集まり合同会議を実施し、横断的な情報共有を行い、効率的な生徒の学力向上を図りました。

【2-1】

■職員会議の強化

教職員が一致協力して教育活動を展開するため、校長の方針や教育課題への方策について、情報共有と意思疎通を強化しました。

【3-1】

通信制課程独自の取組み

教育を受ける機会を最大限に配慮するため、入学、転入学を随時可能としました。また、入学後は学年令の区分に縛られない、生徒の希望、資質、進路に適合したクラス編成により、生徒のニーズに合った指導を行いました。

■平日コースの充実

平日、週2日（月曜日・木曜日）の登校により、H・R、所定の授業、学校行事（球技大会、文化祭、3年生を送る会など）、各種研修（校外研修5回、2年生を対象とした研修旅行など）を計画的に実施することにより、自律・協調・継続と教養を高める指導を行いました。

【1-1】

■進路先の開拓と充実

通信制課程高等学校卒業後の進路確定率を向上させるために、特別進路講座（火曜日・水曜日）を設定するとともに、従来の英語・数学（数ⅠA・数ⅡB）・国語（現代文・古文）に加えて新たに理科（物理・化学・生物）を開講し生徒の学力向上に努めました。

また、ハローワークとの連絡を密にし、就職先の開拓に努めました。

【1-2】

■生徒募集活動の強化

学校説明会を毎月実施するとともに、ホームページの内容充実にも努めました。また、県内中学校、高等学校の学校訪問を行い、広報・生徒募集活動の強化を図りました。

【1-3】

主な行事

4月8日	始業式
4月9日	入学式
4月16日	入学式（通信）
5月13日	P T A総会
6月14～ 15日	球技大会
7月16日	後援会総会（通信）
7月23日	卒業式（通信）
8月27日	入学式（通信）
9月21日	体育祭
9月29日	文化祭
9月30日	文化祭（通信）
12月3日	卒業式（通信）
12月17日	入学式（通信）
1月6日	県外生入試
2月1日・2日	選抜1期入試
2月23日	選抜2期入試
3月1日	卒業式
3月18日	卒業式（通信制課程）
3月20日	終業式

生徒・教職員数

■在籍生徒数

(平成29年5月1日現在)

課程・学科・コース名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数	
全 日 制 課 程	教育学科	40	6	120	22	
	普 通 科	特別進学コース	20	310	1,140	912
		進学理大コース	60			
		進学総合コース	60			
		生命動物コース	40			
		アニメ・デザインコース	60			
		健康・スポーツコース	60			
		中高一貫コース	80			
	普通科 計	380				
	機械科	80	45	240	159	
全日制課程 計	500	361	1,500	1,093		
通信制課程 (広域) 普通科				600	178	
総合計		500	361	2,100	1,271	

(単位：人)

■卒業生数等一覧

(平成29年度)

区分	卒業者	就職希望者	就職者	就職率	進学希望者	進学者	進学率	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
		A	B	B/A	C	D	D/C			
全日制課程	375	49	49	100%	319	312	98%	5	0	1
通信制課程	55	24	16	67%	31	25	81%	8	4	0

※ 修業年限を超えて在籍している生徒数 (平成30年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	トヨタ自動車(株)、(株)デンソー、ダイハツ工業(株)本社、三菱自動車工業(株)、中四国セキスイハイム(株)、クレタノ(株)、(株)DNPイメージングコム、内外スチール(株)、富士ダイス(株)、三井造船特機エンジニアリング(株)、旭電業(株) 他
主な進学先	岡山大学、香川大学、徳島大学、愛媛大学、高知大学、高知工科大学、信州大学、新潟大学、首都大学東京、鹿屋体育大学、鳥取大学、青山学院大学、中央大学、北里大学、東京理科大学、東洋大学、日本大学、立命館大学、関西大学、関西学院大学、岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、千葉科学大学、吉備国際大学 他

■教職員数

(平成29年5月1日現在)

校長	副校長・教頭	教諭	教員 計	事務職員
1	3	62	66	14

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

年度		29年度 決算額	前年度 決算額	
科目				
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金収入	634,232	634,356
		経常費等補助金	325,967	327,628
		その他収入	54,474	35,261
		計	1,014,673	997,244
	支出	人件費	926,452	952,760
	教育研究経費	243,605	259,157	
	管理経費	140,008	106,115	
	その他支出	19	10	
	計	1,310,084	1,318,042	
教育活動収支差額		△295,410	△320,797	
教 活 外	収	受取利息等	2	2
	支	借入金利息等	11,256	15,550
	教育活動外収支差額	△11,254	△15,549	
経常収支差額		△306,664	△336,346	
特 別	収	資産売却差額等	6,900	500
	支	資産処分差額等	227	1,090
	特別収支差額	6,673	△590	
基本金組入前収支差額		△299,991	△336,936	
基本金組入額合計		△251,486	△96,320	
当年度収支差額		△551,477	△433,257	

■施設設備計画

(単位：千円)

事業名	金額
高校LAN整備	14,256